片桐洋一（かたぎり・よういち）　【編集委員】
1931年生まれ。京都大学大学院博士課程単位取得。大阪女子大学名誉教授。主要著書『伊勢物語の研究［研究篇］［資料篇］』（明治書院）『伊勢物語の新研究』（明治書院）『源氏物語以前』（笠間書院）

山本登朗（やまもと・とくろう）　【編集委員】
1949年生まれ。京都大学大学院博士課程単位取得。関西大学教授。主要著書『伊勢物語論　文体・主題・享受』（笠間書院）『日本漢詩人選集・菅原道真』（共著・研文出版）『平安文学研究ハンドブック』（共編・和泉書院）

鈴木隆司（すずき・たかし）
1970年生まれ。京都大学大学院博士後期課程修了。高知大学准教授。主要論文「在中将集の性質と成立（上）（下）」（『国語国文』67-2,3）「伊勢物語享受の一側面－新古今集・新勅撰集の伊勢物語歌－」（『国語国文』70-7）

日下幸男（くさか・ゆきお）
1949年生まれ。大阪府立大学大学院博士後期課程修了。龍谷大学教授。主要著書『細川幽斎聞書』（和泉書院）『近世古今伝授史の研究地下篇』（新典社）『歌論歌学集成』第14巻（共著・三弥井書店）『中世近世和歌文芸論集』（編著・思文閣出版）

大口裕子（おおぐち・ひろこ）
1976年生まれ。早稲田大学大学院博士課程単位取得。霞会館資料展示委員会学芸員。主要論文「伊勢物語絵『十九段と能〈松風〉－「形見こそ」の和歌を中心に－」（『美術史』160号）

伊勢物語古注釈大成（いせものがたりこちゅうしゃくたいせい）　第三巻

2008年（平成20）9月30日　初版第1刷発行©

片桐洋一・山本登朗　責任編集

装幀　右澤康之
発行者　池田つや子
発行所　有限会社**笠間書院**
〒101-0064　東京都千代田区猿楽町2-2-3
☎03-3295-1331(代)　FAX03-3294-0996
NDC分類 913.32　振替00110-1-56002

ISBN4 305 70043-8 C3395　藤原印刷・渡辺製本
乱丁・落丁本はお取りかえいたします。　（本文用紙：中性紙使用）
http://www.kasamashoin.co.jp

伊勢物語肖聞抄

文明九年本・宗長注書入

（片桐洋一蔵）

鈴木隆司

や、人のしぬるといふ事もあるらん、と云義也。

武蔵鐙、下ノ五文字ニユルヽト云ノくて、下ノ句ニて、カヽル折ニヤ人ハ死スラン、ト歎タテタリ。トくハ云トハ、アナタノ歌トウモウルサシトアル事也。面白。祇

十四

一、むかし、男、みちのくにすゝろに　すゝろは、心ならずと也。

そこなる女　誰ともなし。

なかくに恋にしなすはくわこにそなるくかりける玉のをはかり　心は、恋と云物はあひ見る事をたのむに、さも侍らねは、せめてしなんとおもふに、それも又かなはぬ心也、されは、中々に恋にしなてあらは、せめて桑子にもならはや、と云也。桑子は、契ふかき者也。又、命一年を過さるものなれは、執あはせてかくねかふ也。

如此カナシクシテナカラフルモカナシキ。桑子ニ成テ、少ノ間ノ契ナリトモカハシテ、ヤカテ死ニタキト也。クハコ、一年物ニテ、然モ契ハフカキモノナレハイへり。玉ノ緒ハカリトハ、ソツト、云心ナリ。玉ノヲノヤウニ、スコシアリタキト也。桑

子ハ、糸ヲヒク物ナレハ、其縁ヲ以テ玉ノヲトモイへり。祇

クワコ、此ノ字ヲ、当流ニハニコリテヨム也。雖然、スミタルニモ無子細歟。此歌、『万葉』ニハ、

中々ニ人トアラスハクハコニソナルヘカリケル玉ノヲハカリ

トアリ。『万葉』ナトニテ一段作タリトアハ、此事也。此歌ヲ以テ、一段作イタシタル歟。

夜もあけはきつにはめなでくたかけのまたきになきてせなをやりつる　きつにとは、狐に也。下略也。くたかけは、家の鶏といふ心也。但庭鳥と心うる、至極也。心は、夜深くなきて思ふ人を帰せは、狐にくわせん、といへる也。此段みな作物かたり也。

セナヲヤリツル、カコツ心アハレ也。ソコヲミくキ也。

サスカニアハレトヤ思ヒケン、是業平ノ性也。心ニハサシテアハサレトモ、行テネタル也。

くりはらのあねはの松の人ならは都のつとにいさといはましを　是も、

をくろさきみつの小島の人ならは

と云歌をいひかけて作たる也。心は、あねはの松をその人にたとへて、さそはるくき人ならはいさといはまし物を、と云也。

是ヲ、アレハトアルモ一説也。クリハラノアレハ、所ノ名ナリ。ツトハ、土産ト書也。又集ノ字、是ヲツトヽヨム也。ヲクロサキノ『古今』ノ歌、心ハ、コノ島而白所也、然者、此シマカ人ニテアラハ、都へサソイ行へキ物ヲ、ト云心也。此歌ハ、人ヲ松ニナシテヨミタル歌、心ハ、タヽサソハレテ上リ給へキ人ナラハ、ト云心也。サレハ、女ノヨロコフト云事、末ニアリ。祇

よろこほいて　東国の詞のさま也。

悦テマテ也。

思ひけらしとそとは　男の思ひけるよと、女の云テ悦たる也。

十五

一、むかし、男、なてうことなき人　人をかろしめぬ詞也。何条と云は、人なとをないかしろにいふ事也。さも なき人とは、よろしき人と云也。又云、何はかりの人にもあらすと云心也。是可然とそ。

あやしうさやうにて　人のめなれは、かく思くり。